

## 制作概要

まずドローイングがある。湧き上がってくるかのように画面の上に現れる。それは何を表現しているのか？その問いかけは、イメージの現実化の過程の中に答えを求めることとなる。精神的な意味、物質的な意味、そして空間的な意味。それらの細部の絞込みの中から見えてくるもの、そして消えていくもの。かくして、ドローイングは実際の宇宙にその姿を見せ始めることとなる。

なぜ糸なのか、なぜ黒なのか、なぜ編みなのか、それらの選択もある神秘の中にある。言い換えれば、アーティストのコンテキスト＝文脈の中から必然的に生まれてくるのである。ジュートの麻を選び、植物染料のログウッドで黒に染める。その糸を、指でひたすら編み上げる。なぜ編むのか、それはそうせざるを得ない何ものかであった。

編み上げたオブジェではあるが、それは固定的ではない。重力と贖いながら、形を留めるその姿は、指の力の痕跡である。それはまるで縄文式土器のように、そのエネルギーを発し続ける。そのポジティブな存在感は、表象として現れるネガティブなイメージを凌駕する、いや超えていくのである。

空間に位置するそれは、我々に追いかぶさるネガティブな記憶の象徴である。しかし、共有する現代の恐怖は、より普遍的な共有する大地のエネルギーで超えていくことができるのである。そのためのジュートであり、墨黒のログウッドであり、6ヶ月に渡る指編みによる制作であったのだ。

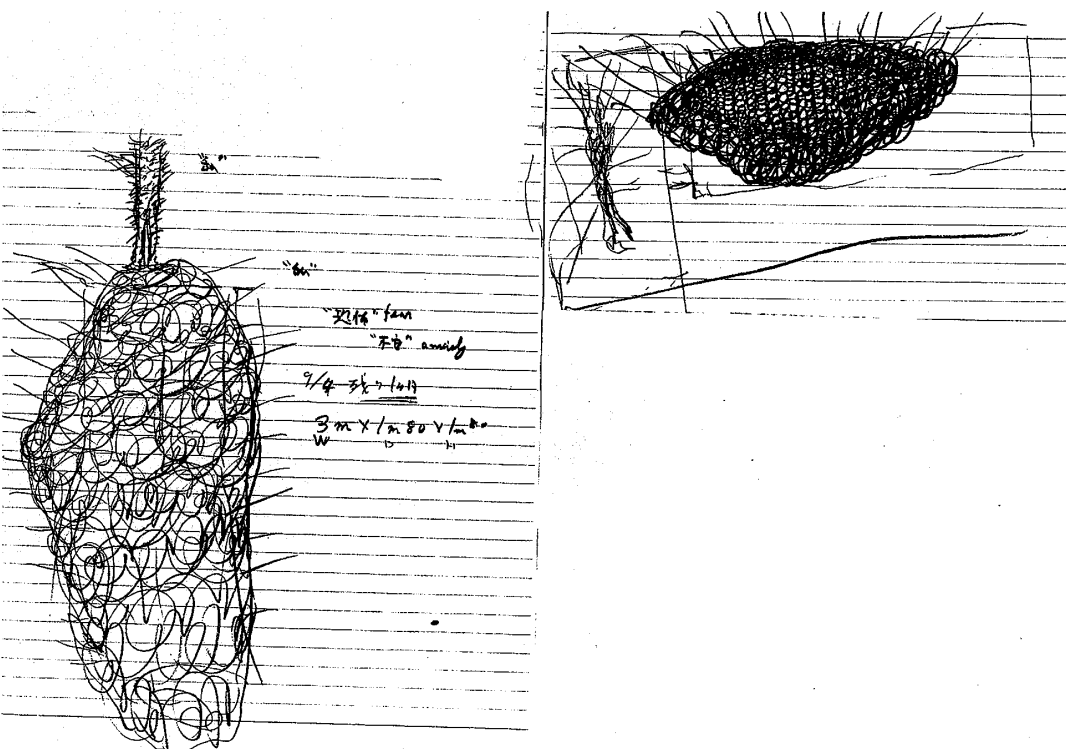
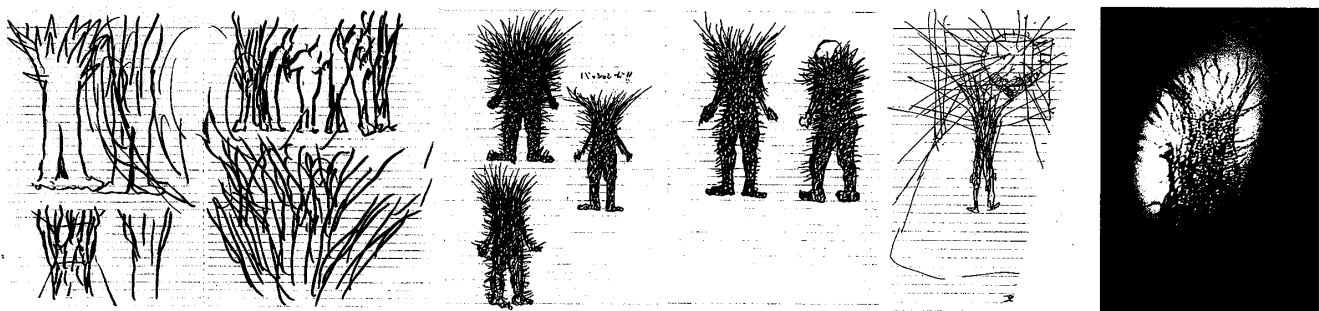
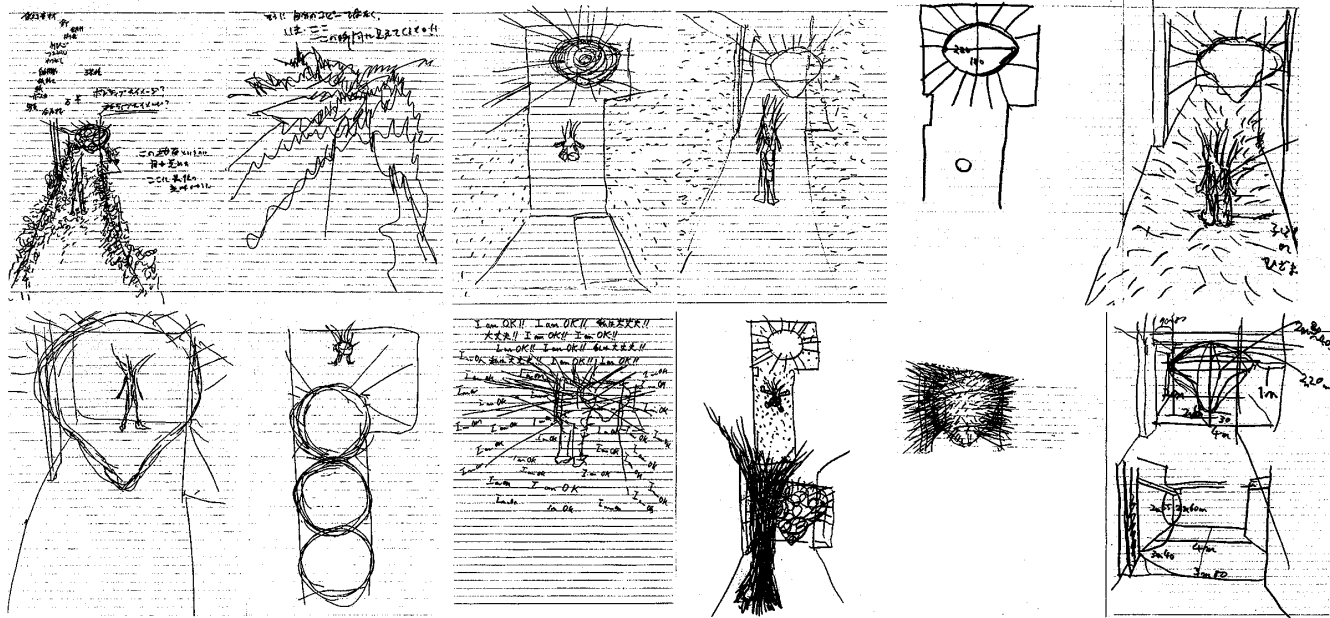
私のインスタレーションは、精神性、物質性、空間性の問題の解決と共に、この世界に生まれてくるのである。

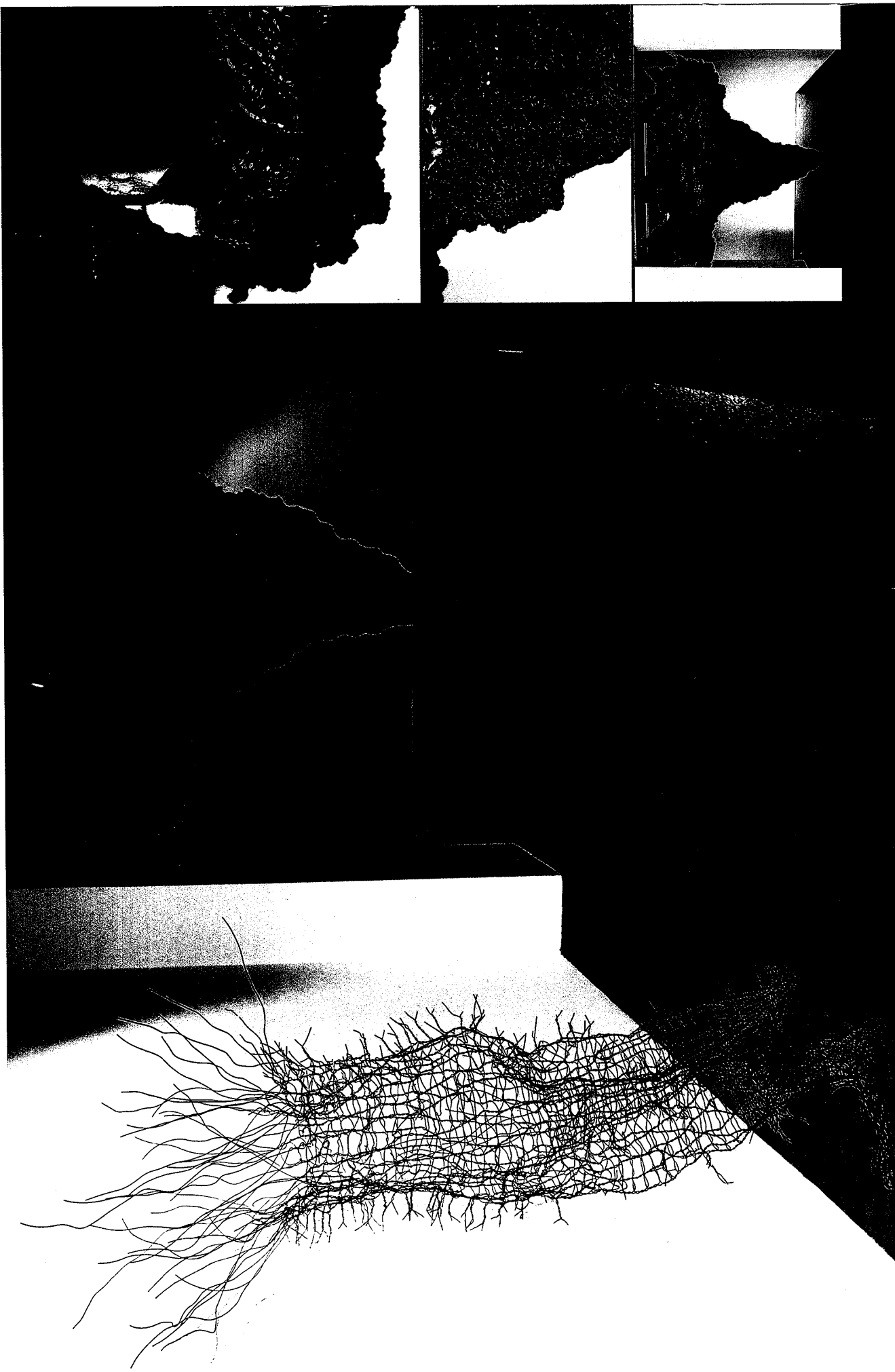
青野 卓司

「根底にある恐怖」

個展

ギャラリーはねうさぎ





青野 卓司

個展「根底にある恐怖」  
ギャラリーはねうさぎ／(京都)

2004年9月7日～19日

インスタレーション h255cm×w400cm×d800cm  
ジュート麻、銅線、ロープ、指編み